

第1187号

株式会社 茨城木材相互市場

2018

那珂川NEWS 11

育てませんか あなたと私の Wood コミュニケーション

開催いよいよ迫る！

11月14日(水) 12:30開市
創立63周年記念市
木材まつり <年間最大のセリ市>

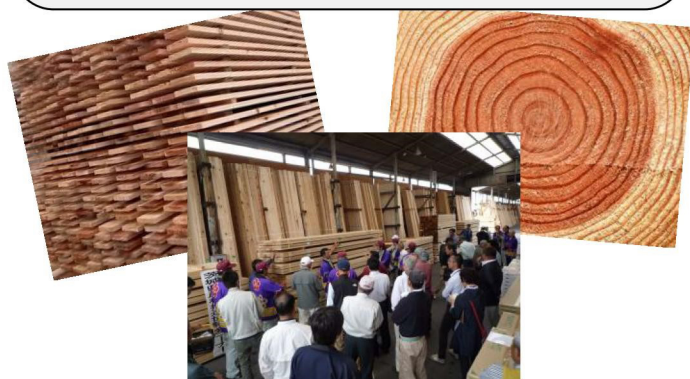
セリ終了後63周年の感謝を込めて…

特賞1万円が1本

5千円が5本(重複ナシ)

などが当たる大抽選会を開催！

「茨城県産材推進協議会」製品出品！！



- 国産材メーカーによる「こだわりの製品」を提供
- 時代のニーズに対応した商品群〔KD材・集成材(まわ)〕
 <優良木材を多数入荷！>
 <盛り沢山なお楽しみコーナー>

同時開催

プレカット見積キャンペーン スタート

期間：平成30年11月14日～12月20日

内容：新規物件のお見積り1件につき

クオカード500円分1枚を進呈！

ご来場を心よりお待ちしております！

■わたしたちの使命
 (茨城木材の社会的役割)

「消費と生産を結ぶ価値ある架け橋」となる
 — 循環型地域環境の創造 —

1. 地域の人々により良い「住環境」を提供すること
2. 茨城県の森林環境を守ること



関東の国産材商況

杉小角、不足感高まる

関東市場は盆明け以降、製材品の荷動きが内外産ともに鈍さが目立つ展開が続いている。桧KD土台は引き続き堅調だが、杉KD柱は10月に入り一服感が色濃く、地合いもやや軟調といえる。そんななか、杉4メートル×90ミリ角はグリーン材、KD材とも「あれば売れる」売り手市場が一段と広がり、特にここ1カ月で一気に不足感が高まっている。値動きがいったん落ち着いていた丸太も、10月中旬から杉柱、桧土台取りが再び強含み、良質材が集まる記念市では異例の高値が出ることも想定されている。

丸太再び強含み

関東市場では春先から4メートル×90ミリ角や4分板をはじめとした杉グリーン材の品薄が続いていた。供給の主力は東北の製材工場で、冬場に品薄となる傾向は以前からあったが、今年は春以降も供給が増えず、市場ではジリ高基調となっていた。(中略)

品薄の背景として、全国的な需要の増加と、供給の減少の双方が指摘されている。建設や土木、仮設や復旧など様々な現場で幅広い用途に使われるバタ角や矢板は、西日本豪雨をはじめとする相次ぐ災害や東京五輪を契機とした再開発工事などで、特に盆明けから全国各地で需要が急速に上向いた。4分板は、針葉樹合板の高止まりを背景に、屋根下地向けなどで代替需要も続いている。

供給面では、関東市場を主力とする東北の工場が、今春に火災で停止し再開が遅れていることが全体の需給バランスに影響していると見られている。加えて、天候不順による出材量の伸び悩みや、丸太の値上がりや背景に工場側は丸太の手当てに四苦八苦の様子で、「製品が3万円以下の価格帯では丸太が手当てできない」「製品価格の底上げがなければ、この先、杉グリーン材の需要に対応できなくなる」と訴える。(後略)

日刊木材新聞 平成30年10月20日号より

[市日予定]

＜本 社＞	＜つくば＞
11月14日(水) 記念市	11月1日(木) 通常市
	8日(木) 記念市
	15日(木) 通常市
	22日(木) 記念市
	29日(木) 通常市

11/14 木材まつり